

重点目標	【構想と準備、児童相互の対話が光る授業】（学習指導）	P
現 状	- 令和3年度の県学習状況調査で、4、5年生はほぼ全教科で全県平均を上回り、6年生は、県平均とほぼ横並びであった。 「主体的で対話的な学び」の具現化について、質問紙調査で「話し合う活動への取り組み」肯定的回答は95.5%、「話し合う活動を通じた考えの広がり深まり」肯定的回答は87.9%。	
具体的な目標	- 県学習状況調査の平均通過率を全学年県平均を上回るようにする。 - 質問紙調査で「自分の考えを発表する機会がある」「話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答90%以上を目指す。	
目標達成のための方策	- 教師をつなぐ協働〈共有と継承〉の校内研究推進体制の確立。 - 学びの合い言葉「聞き合おう友達の考え！話し合おうみんなで！」 「比較・検討」を充実させるための教師のコーディネート力向上 - 少人数指導を積極的に取り入れ、きめ細やかに指導する。 - 諸調査・テスト等を効果的に活用し、学習の定着状況を把握する。 「自学のやり方」を提示し、家庭学習で基礎的・基本的な定着を図る。	
具体的な取組状況	○後半重視型の授業過程を意識し、「分かる・できる・楽しい授業」を目指して校内研究を推進した。 ・授業改善に向け、5回の授業研究会を実施。事後研究会では、「主体的・対話的で深い学び」の3つの視点から児童の姿で授業を検証した。また、2月までに「授業を見合う会」を11回実施した。 ・算数科を中心に比較・検討する学び合いの場面を重視し、ねらい達成のための学習活動や発問の仕方などについて研修を深めた。 ○算数科で、状況に応じた少人数学習とTT指導に取り組んだ。 ○「自学ノート展」を通年開催し、学年だよりでも良いノートを紹介した。	D
達成状況	・県学習状況調査で、多くの教科で全県平均を上回った。 4年生 国語84.5[+4.6] 社会 なし 算数75.6[+6.8] 理科75.5[-2.4] 5年生 国語86.6[+6.9] 社会69.4[+5.8] 算数78.3[+9.9] 理科81.1[+1.3] 6年生 国語86.1[+1.6] 社会72.6[+4.5] 算数68.6[-1.6] 理科81.9[+4.0] ・主体的で対話的な学びの具現（質問紙調査の肯定的回答） 「話し合う活動に進んで取り組んでいる」 4年生92.9%[+2.4] 5年生90.6%[+1.3] 6年生91.3%[+2.6] 「話し合う活動を通して自分の考えを広げたり深めたりしている」 4年生81.5%[-3.1] 5年生87.5%[+2.2] 6年生90.3%[+2.3]	

自己評価	B	・授業研究会の事後研究会は、ワークショップ形式で改善案を話し合い、共有することで、授業改善に生かした。 ・「授業を見合う会」の充実により、多様な手立てを学び合い、授業力の向上や指導技術の継承ができた。 ・「くらべる」を合い言葉に、教師と児童が共に学び合うことを意識してきたことで、学び合うことのよさを実感する児童が増えた。 ・少人数学習とTT指導によって、児童の学習意欲が高まり、教師は個の見取りを丁寧に行うことができた。 ・さらに「くらべる」学び合いを充実させるために、教師のコーディネート力の向上に努めたい。	C
------	---	--	---

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B	・調査結果の数値が良好であるが、まだ伸びしろがあると考えられる。 ・授業からは、よい意味での緊張感が感じられた。集中している目で、目標に合致していると感じられた。 ・教材作りに力を入れていることが伝わってきた。 ・学習指導がよい方向に進んでいると感じた。	C
------------	---	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・今後も、「くらべる」学び合いを充実させるために、学び合う、高め合うことを意識した授業を継続していくようにする。 ・質問紙調査から、児童の学びに向かう意識を確認し、「分かる・できる・楽しい授業」が実践できるように、学年での改善、全校での改善を積み重ねていく。		A
-----------------------	--	--	---